

令和 6 年 9 月 17 日現在

機関番号：34327

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10617

研究課題名(和文)領域横断的「概念基盤学習」の教育ネットワーク創りと導入実装支援研究

研究課題名(英文)Educational networking for the Concept-Based Learning in nursing and implementing support research

研究代表者

津波古 澄子 (Tsuahako, Sumiko)

京都看護大学・看護学部・教授

研究者番号：20302870

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：研究目的は、概念に基づく学習を通じた看護実践能力を育成する教育方法の実装に向けて1)看護大学間の教育ネットワークを創り、2)日本の看護教育における概念の使用頻度のベンチマークを行い今後の教育方法に資する。

研究成果は、1)日本の4大学と米国Kansas大学間でのネットワークを通して、オンライン講演(2021年Dr. Giddens; 2022年Dr. Phillips; Gay; 2023年Dr. Gidden)を開催し交流。講演内容を看護系ジャーナルに掲載した。また、2023年8月に学術集会交流セッションで多くの参加者との交流が広がった。調査研究の成果は学会に投稿(査読中)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学習の科学に基づく「概念基盤学習」の研究は、昨今の教育におけるグローバルに求められている能力ベース教育(competency-Based Education)の看護実践力の育成に必要な概念と評価方法の一つの可能性として焦点をあてたものであり、日米の多大学教育ネットワークの交流で討議を深めたことは社会的に意義深い。また、研究の成果としてベンチマーキングした使用頻度の高い(60%以上)35コンセプトは、現行看護教育において一般的に使用度傾向にあるコンセプトであると推察され、看護実践を支持するコンセプトに基づく学習に活用可能となり得ることが示唆されたことは、学術的意義を示すものである。

研究成果の概要(英文)：The objectives of this study are to 1) create an educational network between nursing colleges (Japan and the U.S.) and 2) measure the frequency of use of concepts commonly held in nursing education in Japan, in order to implement educational methods that foster nursing practice skills through concept-based learning.

The outcome of an educational network between universities (Japan and the U.S.) have achieved through active exchanges in online lectures between four Japanese universities and Kansas University (Dr. J. Giddens in 2021; Dr. C. Phillips and J. Gay in 2022; Dr. J. Giddens in 2023), and the content of these lectures have published in the Journal of Nursing Education. The study of the frequency of using the concepts was conducted with the cooperation of 75 of the member schools of the Japanese Association of Nursing Colleges and Universities, and 35 frequently used concepts were identified, and the research submitted (under review) to the Japanese Society of Nursing Education.

研究分野：看護学基礎

キーワード：概念基盤学習 コンセプトに基づく学習 看護実践力の育成 学生の主体的思考

最終研究成果報告

研究実績の概要

研究の目的：看護実践能力を育成する概念(concept)学習教育方法の実装に向けて、1 . 看護大学間の教育ネットワークを創り、2 .日本の看護教育における概念の使用頻度のベンチマークを行うことで今後の教育方法に資するものである。

研究取組の成果：

1. 大学間の教育ネットワーク創りは、日本の4大学と米国の Kansas 大学が継続して参加し、他にも関心のある大学や看護学校も加わりネットワークも広がる教育活動の継続に至っている。

2 .ネットワークの教育活動は、まず、「概念(コンセプト)学習」の取り組みの現状と課題を知るためにコンセプト学習の専門家を講師に招きオンライン講演を開催し、教員間で概念学習の教育方法の理解を深め、実装への具体的な道筋を構築する機会となった。

【2021年】オンライン講演を2021年6月に Dr. J. Giddens (Virginia Commonwealth University, School of Nursing) を講師に招き、「Conceptual Approach in Nursing Education and Strategies for Implementation」を開催した。Dr. J. Giddens オンライン講演は、本研究調査に協力した75大学にもオンデマンド配信を行った。また、看護系ジャーナル「看護教育」(医学書院)に、「看護教育におけるコンセプト・アプローチと実装方略」, 2022,63(1)を掲載し、読者の看護教員と学びを共有した。

【2022年】コンセプト学習の授業内容と運営の実際について、Dr. C. Phillips に「Implementation of concept-based curriculum」および J. Gay 先生に「Practical teaching of concept-based learning」のオンライン講演を開催した。その後「看護教育」(医学書院)に C. Phillips「コンセプトに基づく学習 講演録2 コンセプトに基づくカリキュラムの実装」, 2023,64(5)と J. Gay「コンセプトに基づく学習 講演録1 コンセプトに基づく教育の実際」, 2023, 64(5)を掲載し、読者の看護教員と具体的な教育内容を共有した。

【2023年】オンライン講演 Dr. J. Giddens による「Concepts and Competency- Based Assessment in Nursing」を開催し、40名ほどの看護教育者と活発な質疑応答と交流を行った。講演内容は「看護教育」ジャーナルに掲載予定である。また、教育活動の一環として、当該研究者が1月(2名)と9月(2名)に Kansas 大学を訪問し、4日間の研修をとおして概念に基づく学習の実際を体験した。とりわけ、授業参加での学生や教員との情報交換は、日本での教育および研究への多くの示唆を得た。

さらに、学術集会交流セッションを2023年8月(日本看護学教育学会第33回学術集会交流セッション)にて行い、「学習の科学に基づく(概念)コンセプトでつなぐ学習：看護実践力の促進」のテーマを提示し、多くの参加者との活発な討議を行った。交流セッション後、複数の大学からの情報交換の要請があり、内容への関心とネットワークの広がりがあった。

3. 調査研究は、【2020～2021年】に日本の看護教育における概念(Concept)の使用頻度のベンチマーク調査を日本看護系大学協議会の会員校(253校)を対象にアンケートを配布し、75校(北海道・東北・関東信越・中部・九州5地域)の協力を得て実施した。

【2022～2023】コロナ禍での調査の延期を経てデータの分析と考察を行った。研究の成果としてベンチマーキングした使用頻度の高い(60%以上)35コンセプトは、現行看護教育において一般的に使用度傾向にあるコンセプトであると推察され、看護実践を支持するコンセプトに基づく学習に活用可能となり得ることが示唆された。その成果を日本看護学教育学会に投稿(査読中)。日本で初めてのコンセプト学習に関する研究の成果が、今後の看護教育の効果的な学習指導方法の一つとして貢献するものと期待する。

<研究成果の学術的意義や社会的意義>

本研究の学習の科学に基づく「概念基盤学習」の研究は、昨今の教育におけるグローバルに求められている能力ベース教育(concept-competency-Based Education)の看護実践能力の育成に必要な概念と評価方法の一つの可能性として焦点をあてたものであり、日米の大学間教育ネットワークの交流で討議を深めたことは社会的に意義深い。また、研究の成果としてベンチマーキングした使用頻度の高い(60%以上)35コンセプトは、日本の現行看護教育において一般的に使用度傾向にあるコンセプトであると推察され、看護実践を支持するコンセプトに基づく学習に活用可能となり得ることが示唆されたことは、学術的意義を示すものである。

<今後の課題>

本研究の成果を基に、テキストおよび教員指導ガイド作成の必要性が示唆され、テキストや指導ガイドを活用した概念学習の実装支援活動は、看護教育の質の向上の推進に資すると考える。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Jean Giddens、津波古澄子監訳および解説	4. 巻 63
2. 論文標題 看護教育におけるコンセプト・アプローチと実装方略	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護雑誌, 医学書院	6. 最初と最後の頁 42-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中島 恵美子 (Nakajima Emiko) (10449001)	杏林大学・保健学部・教授 (32610)	
研究分担者	三浦 友理子 (Miura Yuriko) (70709493)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・准教授 (32633)	
研究分担者	藤野 ユリ子 (Fujino Yuriko) (90320366)	福岡女学院看護大学・看護学部・教授 (37126)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------